Relationships among the state of trust, recognition of uncertainty in illness, and self-care behavior in adults with type 2 diabetes

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-11-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060008

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

令和 2 年 2 月 20 日

博士論文審査結果報告書

学籍番号　1529022023

氏　　名　丸山　育子

論文審査員

主　査（職名）　大桑　麻由美（教授）　印

副　査（職名）　塚崎　恵子　（教授）　印

副　査（職名）　稲垣　美智子（教授）　印

論文題名 Relationships among the state of trust, recognition of uncertainty in illness, and self-care behavior in adults with type 2 diabetes
（成人２型糖尿病患者の類型化した信頼の様相と病気の不確かさの認知およびセルフケア行動の関連）

論文審査結果

【論文内容の要旨】

慢性疾患である糖尿病は，患者のセルフケア行動が重要であり，治療中断やセルフケア行動の不遵守は課題となっている。先行研究（博士前期課程）において「糖尿病をもつ生活の不確かさ」の自覚は「医師を信頼する」という現象を生み出している様相を明らかにした。本研究は，Mishel の病気の不確かさ理論を基盤に「信頼の様相を識別する質問紙」を作成し，それによる「信頼の様相の類型化」と「セルフケア行動との関連」を検証した。信頼の様相を識別する質問紙（原案）は 10 項目からなり，各項目を 5 件法で回答するものであった。セルフケア行動は日本語版セルフケア行動評価尺度を用い，下位尺度は食事，運動，血糖測定，薬物，フットケアから構成され点数化する。

対象者は，外来または入院中の 2 型糖尿病成人患者であり，質問紙（原案）配布数 204，回収数 125（61.0%），有効回答数 113（90.4%）を分析対象とした。項目分析，I-T 相関，因子分析を実施した質問紙は，3 因子 6 項目が抽出された。第 1 因子：相性の合う意思を求める（2 項目），第 2 因子：安心して医師に任せる（2 項目），第 3 因子：都合よく医療にかかる（2 項目）であり，累積寄与率は 69.3%であった。この 3 つの因子得点から，クラスター分析を行い，信頼の様相を 4 つに類型化した。「相性の合う医師を求めて安心して任せる（n=22）」，「医療にかかるが医療者とは距離がある（n=18）」，「相性でなく安心して医師に任せる（n=21）」，「医師との相性を重んじる（n=52）」であった。信頼の様相と関連のあったセルフケア行動は食事であり，「相性の合う医師を求めて安心して任せる」パターンは，「医師との相性を重んじる」と比較し食事療法実施率に差があった。

【審査結果の要旨】

本研究は 2 型糖尿病成人患者がもつ「不確かさ」を「信頼の様相」としてとらえその類型化を試み，セルフケア行動との関連を見出した新規性の高い研究であった。質疑応答では，対象者の妥当性について，分析の核となる信頼の様相の類型化の妥当性について，十分に応答していた。

以上，学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき，博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。